



元氣とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 2022年01月17日 第1052号「週刊五十嵐レポート」

後継者の経営戦略ノート

1月4日付日経新聞夕刊、「東大合格生のノート研究、太田あやさんに聞く」という特集があった。「なぜ勉強ができる子はノートが美しいのか」をテーマに東大合格生のノートを多数分析した太田あや氏の「ノート力」が書かれている。

「なぜ、ノートを書かないといけないのか」。それは、理解を深めるインプットと正確なアウトプットにある。「ノートは第2の脳だ」。例えば、授業中。黒板、先生の話、教科書と知識はバラバラの状態だが、パズルのピースを組み合わせるようにノート上で知識を体系的にまとめることで理解が深められる。

ノートは覚えたい部分を強調したり、必要のない部分を削除したりと自分に合った編集ができる。「教科書や参考書よりもノートを信用している」。成績が伸びる子と伸び悩む子の違いは、弱点に向き合い克服できるかにある、と。ミスは苦手分野や間違えやすい傾向を分析するために役立つ。「見直しノート」をつくり、弱点を克服する。

昨年の5月から社長の命を受け、後継者A氏が社長塾に参加している。A氏はビデオを見ながら、参加されている経営者の話を聞きながら、気になることをノートに書き込む。それを一つずつ「当社は、ここはどうしているのか？」と社長とミーティングをする。ノートに書き出すことで自分の頭がクリアになり、それらの実行に繋がっていく。

A氏は言う、「国語力の弱い人間は、本を読んだだけでは頭に入らない、聞いても身にならない、ビデオを見てもすぐに忘れる。学生のように予習や復習ができない。ノートに書き出すことにより毎回気になる所を読み直し、一歩ずつ前に進むことができる」。

既にノートは3冊目に入った。毎週ノートを使って、社長のミーティングを開き、会社の方針をすり合わせていく。ノートを使って、リーダー格のスタッフと今後のやり方を詰めていく。ノートを使って、マニュアル作りを進めていく。

小さな成功を社員とともに作り上げ、その輪の徐々に広げていく。後継者の活動が進みつつある。「見直す」「再度考える」「行動に起こす」。

ノートは第2の脳。なるほど。

ちょっと
気になる出来事

1月14日付日経新聞、「倒産、今年は反転増懸念 昨年57年ぶり低水準」という記事。

東京商工リサーチが発表、2021年の企業倒産件数は前年比22%減の6030件。1964年の4212件に次ぐ57年ぶりの低水準。

21年の倒産件数の減少は金融機関の融資や政府支援によるところが大きい。20年1月から21年12月下旬までの中小企業向けコロナ融資の承諾額は政府系と民間合わせて約55兆円。法人企業統計調査によると、実質有利子負債残高は21年9月末で349兆円とコロナ禍前に比べて50兆円以上増加。

元金返済が始まった企業は21年9月時点で56%。また21年5月以降信用保証協会が承諾した保証額は急増しているとのこと。中小企業で返済が滞っているところが散見しているということ。

昨年の倒産は低水準だったが、今年は急増するかもしれないということ。企業間格差がどんどん広がる。倒産が多い時は、不況のときではなく、景気が良くなるころが一番多い。気をつけながら、一步一步上りつめよう。



一口メモ
知識

時に任せる

日往けばすなわち月来たり、月往けば、即ち日来たり、日月相い推して明生ず。

太陽が没すれば月が昇り、月が往けば日が昇るように、日月は入れ替わり立ち替わりして推移する。日月は共に感応し、共に推進して地上に明をもたらす。

ともすれば人間は思慮を巡らせて物事を進めようとするが、頭で考えることよりも、自然の時に任せて推進するほうが大きく運行していくものである。

「易経一日一言」(致知出版/竹村亜希子)より

- 「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時～12時
- 「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5
TEL03-3659-7703 Fax03-3659-7077 info@igarashireport.com

